

ARAI NEWS

ヘルメットの安全性における一番大きな要素は、やはり帽体です。ハイサイドのように衝撃が大きくなればなるほど帽体は頑丈でなければなりません。しかもそこを打つか予測できないだけに均一な厚みが必要なのです。いくら頑丈でも厚みにバラツキがあれば、薄い部分に衝撃が集中してしまうからです。ところでアライなど国内主要メーカーのほとんどは、バック法と呼ばれる熱加圧方式による成型方法で帽体が作られています。このバック法では、外国製品の多くに見られるハンドメイド法よりも、スーパーファイバーなどの繊維の含有率が高くなるため、同じ厚みでも強度を高く保つことができますが、製法上の欠点として均一な厚みを保持するのが難しいという点があります。

アライでは、この均一な厚みを保持するために、様々な手段を講じていますが、10数年前から変わらず続けている確かな方法があります。それは誠意ある人間の手によって確認す



ることです。成型部門で製造された帽体は、成型部門内で一箇残らず全ての厚みがチェ



クされます。そして成型部門でチェックされた帽体は、そのまま検査部門に送られ、再び全数の厚みがチェックされます。一つの帽体を2度までもしかも全数にわたりチェックする。時間と手間のかかる原始的な方法ですが世界中どのメーカーもやっていない一番確かな方法で均一な厚みを保っているのです。

アライでは、この全数2度検査により、どんな一流選手が使用するヘルメットでも、一般に市販させていただくものと区別することなく、生産ラインからそのまま帽体を抜き取り、自信をもって使用していただいています。ヘルメットは、目に見えぬ箇所にこそ価値があるものです。帽体の頑丈さ、柔らかな緩衝体、確かなアゴヒモなど、アライは、たゆまなく安全性を追求してまいります。

ところで、この2度検査導入のキッカケは、その前の年に、ある大手のバスタブメーカーを訪問した時の小さな出来事です。そのメーカーでは、聖堂にご使用になられるバスタブも作られているので「聖堂に納めているバスタブは、どのように作っていらっしゃるのですか。」と尋ねてみました。すると「特別なものは作っていません。もちろん最高級のもので、一般のラインに流れているものの中から検査合格のマークを確認しそのまま納めています。品質管理のシステムが徹底しているので、一級品以上のものは作れないんですよ。」と言われました。これを聞いたとき「なんてカッコいいんだろう。アライでもこう答えられたら、いいのになあ。」と、もの薄く思いました。それがアライをムキにさせたのです。

アライでも、10年以上前から、どんな有名レーサーがかぶるヘルメットでも、市販品と変わることはありませんと、胸を張って言えるようになりました。アライがバスタブを作るメーカーの話を知って変わったように、どこかアライの話を知って聞いて、我が社でも取り入れてみようというメーカーが出てきたならば、夢が膨らむように楽しい限りです。



安心できるヘルメットを追い求めて

(株)アライヘルメット
 〒330 埼玉県大宮市東町2-12
 TEL(048)641-3825~7



●メーカーサーブの並びは品質管理課
 製品の専任、お電話： 相に(048)641-3825
 直通 TEL(048)645-3941